

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【新開小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)自らの学習状況を把握し、学びに向かう力 (2)友達や地域・保護者と関わりながら、協働的に問題を解決する力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)児童一人ひとりの課題に合わせて学習に取り組む時間や振り返りを行う時間を設定して、学習内容の定着を図ったり、さらに理解を深めたりする。【週2回の学習タイム、毎学期末の学力向上タイムを実施】 (2)ユネスコスクールの特徴を生かして、答えが1つではない課題について考えたり、表現したりする活動を取り入れた授業を展開する。【全学年において、地域や保護者と連携・協働した、教科横断的な視点に立った教育活動の実施】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	国語は、昨年度の課題であった「言葉の特徴や使い方に関する事項」について概ねできており、特に短答式の問題への取組が向上した。しかし、「読むこと」に関する領域は理解が不十分の箇所が見られ、特に自分の経験と考えを結び付けてまとめて書く記述式の問題について課題が見られた。 算数は全体的に学習の成果が見られ、特に「数と計算」「データの活用」の領域については、計算技能の定着や図形の性質の理解がよくできていた。また、記述式の問題についても図形を構成する要素や条件を捉え、数や言葉を用いて解答することができていた。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語では、問題文の文章理解と自分の考えを表現する時間が足りず、解答できなかった場合が多かった。普段の授業の中で、より丁寧に説明文や物語文を読み取っていく学習に加えて、自分の考えを明確にして書く活動の充実を図っていく必要がある。 算数では、学習タイムや学力向上タイムの時間を確保し、計算技能の定着や図形の意味や性質を理解できるまで、児童一人ひとりに合わせて学習を進めたことが成果に結びついていた。今後も本校児童の実態に合わせた「学びの多層指導モデル」を推進していく必要がある。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学習タイム・学力向上タイムの設定により、ICT等も活用して基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。また、1学期に実施した研究授業の参観・協議、夏季休業中の職員研修会等を通して、児童の実態把握や指導の工夫・改善について、研究を深めた。 本年度は、3学期に「教科横断的な視点に立った探究的な学び」に関する研究発表会を予定している。これまでに培ってきたユネスコスクールの特徴を基に、児童一人ひとりの実態に合わせた授業のあり方について更に研究を推進していく。
	A	
↓		
学力向上策の 見直し	変更なし	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所